

## 1. 学校園施設・設備を原因とする事故

### 1. 日頃から留意すべき事項

学校園施設・設備を原因とする事故はあらゆる場面において発生しうることから、全教職員が日頃から学校安全の重要性を認識し、危機管理意識を高め、学校園内の施設・設備について、定期的、臨時的、日常的な安全点検を徹底することが重要である。そのうえで教育委員会と各学校園が情報の共有を図り、組織的な取り組みを行うことが必要となる。

#### ○安全点検指導日の活用

- ・ 毎月の安全点検指導日には、全教職員が校園内の施設・設備の安全点検を徹底する。危険箇所や異常を発見した際には、校園長の指揮のもと、危険物の除去、施設・設備の修繕、危険箇所の明示、立入禁止や使用禁止、または使用場所の変更を行うなどの適切な措置を講じる。
- ・ 各学校園の施設・設備において、安全点検表の点検項目に記載のない項目や不足している項目がある場合は、安全点検表の「その他の欄」を活用して追加する等、把握漏れのない安全点検表とする。
- ・ 目視等による点検では安全性の判断が困難な場合、または設置場所や構造上の複雑さ、表面の塗装等により金属疲労・腐食・破損等の状態を正確に把握できない場合は、「堺市版 学校園施設・設備における安全点検（フロー図）」（別添参照）により、学校施設課への相談、または専門業者への点検及び修繕の依頼を行う。

#### ○児童生徒等への対応

- ・ 児童生徒等の安全に対する意識の高揚を図るとともに、平常より危険を予測しての安全指導を十分に行う。

#### ◆学校園施設・設備を原因とする主な事故と対応

##### ①学校園施設・設備の老朽化（安全面の不具合等）による事故

- ・ 外壁部材等（モルタル片等）の落下、体育館床板の剥離等は、重大な事故につながる恐れがある。安全点検や日常管理の過程において、児童生徒等の目線や多様な行動等も考慮のうえ、学校園の安全確保に万全を期すこと。

##### ②サッカーゴール等（学校備品等）の転倒等による事故

- ・ サッカーゴール、バスケットボールゴールやテント等が、強風や児童生徒等の力により転倒しないように、杭により固定したり、十分な重さと数の砂袋等で安定させたりする等、転倒防止のため配慮すること。

##### ③その他、遊具等、学校園施設・設備使用時の事故

- ・ 遊具点検、定期点検等の点検結果を十分に把握し、是正等の必要な対応を計画的に行うこと。

#### ◆安全点検の視点（参考）

⇒施設・設備の「不備・破損のチェック」のみになっていないか？

物・・・日常の教育活動時の児童等に及ぼす危険性等

自然災害発生時の物の落下、倒壊による避難経路の妨害等

→物の「置き場所」「固定」等も視点の一つ

人・・・児童生徒等の危険行動を予測

→児童生徒等の負傷等につながる足掛かりとなるもの等、物の「配置状況」も視点の一つ

→ルール作りや生徒指導等、人への改善措置も視点の一つ（安全指導との連携）

→児童生徒等の健康状況や障害の状態等も視点の一つ

## 2. 緊急対応のポイント

### ＜具体的事例＞

- ① 生徒が校内を歩行中、老朽化した天井部材の一部が落下し、頭部を負傷した。
- ② 休憩時間中、数名の児童が運動場にあるサッカーゴールにぶら下がって遊んでいたら、児童の重みでサッカーゴールが前に倒れ、児童一人がサッカーゴールの下敷きになり、腹部を強く打った。

#### 事故発生・発見

- ・被害児童生徒等に対し、適切な応急処置を行う。
- ・速やかに校園長や養護教諭等に連絡し、協力を求める。
- ・必要に応じて救急車の手配をする（救急搬送の判断）。
- ・学校園の施設・設備を原因とした事故で、負傷者がいる場合には警察へ連絡・報告する。



#### 校長の対応

- ・保護者への連絡等について、関係教職員に敏速・適切に指示を行い対応する。
- ・関係児童生徒等から聞き取りを行い、状況を正確に把握する。
- ・学校保健体育課、学校施設課に報告する。



#### 保護者への対応

- ・原則として、担任が事故やケガの状況を説明し、すぐに来校（園）または来院を願う。
- ・校園長は、保護者に事故の状況や学校園の対応等について誠意をもって説明する。



#### 緊急の職員会議

- ・校園長は緊急の職員会議を招集し、事故の状況やそれに対する処置、児童生徒等への指導について教職員の共通理解を図る。
- ・教職員全員で事故の原因究明や対応策を検討し、再発防止に努める。



#### 保護者各位・地域関係者等への連絡

- ・可能な限り、事故のあった当日中にプリントを作成し、配布する（文面については、学校施設課と要調整）。当日配布が難しい場合は、当日中のメール送信（「いくくるメール」等）や学校園HP掲載を検討する。
- ・自治会関係者やPTA役員等に連絡を入れておく。

#### 報道機関への対応等

- ・報道提供を行っている場合、マスコミ等から取材や問合せがある。対応については、窓口を一本化し、管理職が対応する。



#### 緊急の施設・設備の点検

- ・教職員全員で校園内の施設・設備について、安全点検を行い適切な対応を講じる。



#### 全校園児童生徒等への対応

- ・全校園集会や学級活動において、児童生徒等への説明と安全指導の徹底を図る。



## ○救急車の要請に関する留意点

1. まず落ち着いて 119 番通報

⇓  
**《もしもし 救急ですか、消防ですか》**

2. 「救急です」とはっきり 2 回繰り返す。

⇓  
**《あなたの住所は、目標物は何がありますか》**

3. 堺市〇〇〇 □□番地、堺市立△△△小学校です。近くに〇〇があります。  
校内への入り口は、どこかを付け加える。  
(住所や学校名を伝えた時点で救急車は出発しているので、後は落ち着いて対応する)

⇓  
**《どうしましたか》**

4. 患者（負傷者）の年齢、性別、人数等を告げる  
いつ、どこで、何を、どうした、どんな状態にあるか（意識、呼吸、脈拍など）等を説明する。
5. 救急車のサイレンが聞こえたら、入り口付近に案内する人を出して誘導する。

### ◆救急車への同乗者の役割

- ・同乗者は、負傷の説明ができる教職員が付き添う。  
(養護教諭、教頭、担任等)
- ・受診後の容態等について、学校に報告する。
- ・患者（負傷者）を保護者に引き渡すまで付き添う。

### ◆大至急、救急車を要請する必要がある場合

- ・呼吸停止、心臓停止で人工呼吸又は心肺蘇生法が必要な場合
  - ・呼吸困難な場合
  - ・胸痛を訴えている場合
  - ・大出血があり、ショック症状がある場合
  - ・腹部を強く打ちショック症状がある、又は腹部全体が緊張して痛みが強く嘔吐や吐き気がある場合
  - ・重症のやけど
  - ・頭部を打ち、又はその他の理由で意識状態に異状がある場合
  - ・脊髄を損傷しているおそれがあり、手や足の一部又は全部が麻痺している場合
  - ・激しい腹痛を訴えている場合
  - ・吐血や下血がある場合
  - ・腕や足を骨折している場合
  - ・けいれんが続いている場合
- 上記以外の場合でも判断に迷うときは、救急車を要請する。

### 3. 事後の対応のポイント

- ・事態が収拾した後には、負傷した児童生徒等の不安の緩和や心のケアを行う。また情報を整理し、調査・報告を行い、再発防止につなげる。
- ・学校園の安全を確保するため、教職員一人ひとりが安全・危機管理意識を十分に高めたうえで安全点検指導日の安全点検を徹底する。また、事故が二度と起きないように、児童生徒等の安全に対する意識の高揚を図り、平常より危険を予測しての安全指導を十分に行う。

◆安全点検の点検項目別のチェックポイント等の参考資料として、以下の資料をダウンロードし、情報の共有及び保管を行ってください。

- ・「学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブック（平成 27 年 3 月改訂版）」（文部科学省）